

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 和歌山県立星林高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒641-0036
和歌山市西浜2-9-9

E-mail : postmaster@seirin-h.wakayama-c.ed.jp

Website : http://www.seirin-h.wakayama-c.ed.jp/

児童生徒数：男子 名 女子 名 合計 名
 児童・生徒の年齢 15歳～18歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動 (複数選択可)

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

国際交流科 1年生の海外研修旅行(カナダ)をはじめ、全生徒対象としたオーストラリア短期語学研修、韓国姉妹校訪問研修を実施した。研修参加者には、研修後、事後学習として感想文を提出させたり、学校説明会等で発表させたりしている。海外研修旅行(カナダ)から帰国した後は、事後学習として生徒は各自テーマを設定し、カナダに関する調べ学習を行いクラスで発表し、代表者数名は国際交流科 1・2年生(80名)の前でも発表した。1年生にとっては、海外研修旅行の事前学習として役立っている。

また、普通科 2年生は、沖縄で平和学習を目的とした修学旅行を行っている。旅行後には、基地問題や沖縄の自然環境や民俗など班別にテーマを設定し、調べ学習と発表をすることで、平和や人権、環境に関する学習につながっている。国際交流科の事後学習発表者も含めクラス代表者が 2 学年生徒全員の前で成果を発表した。

一昨年度から始まったタイ・カセサート大学附属学校マルチリンガルプログラム チョンブリー校との相互交流が 2 順目をむかえ、本年度は同校より生徒 9 名と引率教員 1 名を 2 週間受入れた。来年度は、訪問団をタイに派遣する予定である。タイの文化や情勢を知るだけでなく、国際語としての英語を実践的に学習する良い機会でもあり、相互交流をさらに充実させたい。

本年度は、和歌山県観光交流課を通してマレーシアの学校が本校を訪問したり、ユネスコ・アジア文化センター (ACCU) が企画する韓国教職員訪問団を受け入れた。また、本校の職員 1 名が同団体派遣プログラムで韓国訪問させていただいている。

留学生の受け入れについては、久しぶりに短期留学生として、留学団体 YFU を通じてアメリカより 2 名の学生を受け入れた。また、ヒッポファミリークラブを通じてタイからの長期留学生も受け入れた。

本年も長期留学を希望する生徒が多く、4 名の生徒がアメリカ、ドイツ、フランスに留学中である。他にも、各種団体が企画する派遣事業に参加した。

異文化理解促進の一つとして、第二外国語の習得を促進している。本年度も、第 3 回第二外国語レシテーションコンテストを開催し、韓国語、中国語、スペイン語選択生徒は、同じ課題である「星の王子様」の一節をそれぞれの言語で暗唱し発表した。生徒にとっては、各言語の音声面の特徴を体感でき、言語の面白さや語学学習の意欲向上に貢献している。

防災および地域理解の側面においては、学校全体で防災及び減災意識を啓発するために講演会と訓練を実施した。1 年生は、非常食 (アルファ米の炊き出しや段ボールパテーションの組み立て、AED を使用した普通救急救命講習を実施し、避難経路の確認や地域の地形の確認を行った。

これからも交流、および語学教育を中心に異文化理解を促進し、国際社会の一員としての自覚を高める取り組みを進めたい。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）